＜全体分析＞

試験時間　120 分

解答形式
記述式

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点
従来通りの出題形式である。試験時間から考えると，記述量は非常に多い。

その他トピックス
なし。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ(A)	英文解釈 (57words)	海と生	英文の意味を把握すること自体はかなり容易だろう。しかし下線部をこなれた日本語に落とし込むには熟考を要する。これにどれほどこだわるかで解答時間も変わってこよう。状況を冷静に判断することが肝要ということになる。この「的確な日本語訳が困難」という事態はここ数年の大問Ⅰでは常態化している印象がある。ポイントとしては，強調文の把握，the life's greatest terror および〔the＋形容詞〕の的確な訳出が挙げられる。	やや易
Ⅰ(B)	英文解釈 (98 words / 下線部 57 words)	芸術という生業	阪大としては標準的レベルの英文である。下線部第 1 文の why they do what they do は直訳では要領を得ない訳文になるので文脈を把握したうえで的確に意訳する必要があろう。豊富な和訳経験が求められるところだ。第 2 文の aspiring は多くの受験生にとって未知語だろうが，これも文脈全体を慎重に考慮に入れれば語義の推理は十分可能だろう。第 2 文の one が an artist の代用表現だと判断することもポイントの一つ。	標準
Ⅱ	読解総合 (1116words)	心理的リアクタンスが生じる要因とその対処法	例年通り全てが記述式の設問であったが，和訳問題がすべて説明問題と融合した形となった。英文全体の趣旨は比較的把握しやすいが，例年通りどこまで踏み込んで書くべきか悩む設問も多い。設問(2)では，本文の具体例をどの程度解答に組み込むかの判断が難しく，また設問(3)では this の内容が広範囲に渡るうえ，committed brand relationships や compliance norms など，直訳では意味をなさない表現が各所に見られ，答案作成に多くの時間を要したと思われる。	標準

© 河合塾　2024 年

Ⅲ	自由英作文	大学での理想の学び	どうやら80語程度という語数指定は定着したと判断してよいだろう。「大学において自分が理想とする学びとはどういうものか」という問いだが，自由英作文のテーマとしてはやや漠然とした出題という印象。どういう「具体例」を提示するか，抽象的記述と具体的記述をどうバランスさせるかが答案の質を左右するだろう。またこの設問の場合，主題と関係のない内容を書いていないかどうか，抜け目なくチェックすることが必要だろう。	標準
Ⅳ	英作文	絵本の力	全体に標準的な難度であり，受験生の学力差，とりわけ語彙力の差が正確に反映される設問と考えられる。下線部(2)の「雪解け」は文脈より「和解」や「関係改善」などと読み換えれば的確に処理できよう。「…までには，それほど時間はかからなかった」は周知の「時間経過」の構文を用いれば容易に処理できる。下線部(3)では「まやかしの力」が一考を要する。やはり文脈を考慮して，superficial「うわべだけの」やobscure「ぼんやりした」といった語を引き当てたい。下線部(3)の「現実と向き合い，困難に打ち勝っていくための本物の力が，絵本にはある」は直訳すると「絵本が困難に打ち勝つ」という奇妙な図式が成立してしまう。「絵本が困難に打ち勝つ力を与えてくれる」といった解釈に持ち込む冷静さが求められる。	標準
Ⅴ	リスニング (502 words)	時計の歴史	例年通り全て記述式の設問だが，どの問も該当箇所が把握しやすく迷う問題は少ない。設問(3)の該当箇所にあるquartz crystalという語句は「水晶振動子」という意味。設問(3)と(5)は落とせない問題であり，全体的に高得点勝負となるだろう。	やや易

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

基本的には外国語学部以外の学習対策と同じなので，外国語学部以外の分析シートの＜学習対策＞も参考にしてもらいたい。長文読解対策としては，まずは，一文一文を吟味しながら読み進めるという基本的姿勢をしっかり獲得すること。そしてその延長線上にこそ，パラグラフごとの論旨を大きくつかむ，いわゆる速読的作業があるのだと心得てほしい。ここに至るには長期に渡る準備が必要なことは言うまでもない。英作文のレベル・傾向は外国語学部以外と同じと考えてよい。こちらもかなりの期間に渡る準備が必要となる。聞き取り問題はすべて記述式なので，英語を聞き取る能力だけでなく，聞き取った情報を迅速に適切な日本語にまとめる能力も重要である。

© 河合塾　2024 年